

竜田を語る会

～愚直に学び・語り・伝える～

五個荘竜田町は、人口1,032人、440世帯で、高齢化率約19.2%の五個荘地区で最も人口の多い自治会である。竜田町自治会では、平成25年（2013年）3月に4年をかけて郷土史の『ふるさと竜田』を発刊する。これを起点に、同年4月に有志で「竜田を語る会」を結成し、学習会や講座を開催して歴史を伝え続けている。

1. 「竜田を語る会」の設立

「箕作城の戦い」

これは令和2年（2020）9月19日（土）に五個荘コミュニティセンター（コミセン）で開催された「コミセン歴史公開講座」の講演テーマである。

「コミセン歴史公開講座」は平成25年（2013）9月から2か月に1回、年6回開催される講座である。

この講座を企画・運営するのは「竜田を語る会」である。会長は高野勝次さん、事務局長は市田正尚さんが務める。

高野さんが五個荘竜田町（以下、竜田町）の自治会長であった平成21年（2009）5月の自治会定期総会にて、郷土史の編纂が自治会の事業として承認された。そして、この年の9月に

公募した編集委員の任命が自治会の評議員会にて行われ、翌月の10月から編纂事業が始動する。10月から編纂事業が始動する。この時に、市田さんも編集委員に任命され、携わることになる。

市田さんは「私は昭和19年生まれで戦争を体験した世代です。戦前や戦中の出来事を抜きにして、戦後の歴史を語り、伝えることはできない。戦争を体験した世代として郷土史の編纂に関わる必要があると感じたのです」と話す。

そして、平成25年（2013）3月に編纂事業開始から4年をかけて『ふるさと竜田』が発刊される。

これを起点に、郷土の歴史を伝承し、史料の保存と、さらなる郷土史の調査と学習をすすめるため、同年4月に有志で「竜田を語る会」を結成した。



『ふるさと竜田』



コミセン講座の様子（竜田を語る会ホームページより）

2. 「竜田を語る会」の活動内容

早速、5月に第1回学習会を開催する。学習会は毎月第3火曜日に定例化され、テーマを設定して会員同士で学習する。そして、9月には学習成果を報告する「コミセン歴史講座」が始まる。

なぜ、「コミセン歴史講座」となったのか。高野さんによると、「竜田を語る会」の活動を知った当時のコミセン館長から「コミセン共催の歴史講座にしないか」と声がかかり「コミセン講座」になったという。

「特に計画的・系統的にテーマ設定しているわけではありません」と高野さんは話す。

市田さんは「一つのテーマは次のテーマを生みます。謎を解くと新たな謎が見つかる。それを追っていくと終わりはないのです」と話す。レントゲン技師として県内各地の病院に勤務していた市田さん。高野さんは「市田さんは理系の思考回路なので、どんどん繋がっていくようです」と話す。

平成26年（2014）7月からは、機関紙「かわら版」を年4回発行している。「かわら版」では地名紹介、神社紹介、発掘記事など学習会とコミセン講座に連なる興味深い記事が掲載される。また、「五箇荘の歴史」と「五箇荘言葉」が学習会の都度、配布されている。

さらに、「竜田を語る会」では、歴史と文化の「見える化」にも取り組む。



建立された中山道の石塚一里塚跡の碑（竜田を語る会ホームページより）



第38回五箇荘コミセン歴史公開講座（「中山道と愛知川宿」令和2年11月21日開催）の様子

中山道の石塚一里塚跡の碑の建立や松居遊見碑の案内板を設置したり、河川名の銘板を設置したりしている。今年度は五箇荘山本町自治会と貴船神社、五箇荘伊野部自治会と建部神社に承認を得て、冒頭の「箕作城の戦い」の案内板を設置する予定である。

「竜田を語る会」の会員数は60名を超える。竜田町をはじめ五箇荘地区内14自治会に会員が存在する。市内では八日市地区や能登川地区の他、市外にもいる。

3. 「愚直」に続ける

市田さんは「文化に対して思想することがないと形だけになってしまうのです」と話す。

では、なぜ続けられるのか。市田さんから返ってきた答えは一言。「愚直だからです。」

先人たちの歩みの積み重ねの上に今がある。その足跡に敬意を払い、学ぶ。その学びが未来を拓く力となる。そんな学びの場を「愚直に」創り続けているのが「竜田を語る会」である。



竜田を語る会のメンバーの方々（「第38回五箇荘コミセン歴史講座」<五箇荘地区文化祭で開催>を終えて）